



2:1 イエスがヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東の方から博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。

2:2 「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。私たちはその方の星が昇るのを見たので、礼拝するために来ました。」

2:3 これを聞いてヘロデ王は動揺した。エルサレム中の人々も王と同じであった。

2:4 王は民の祭司長たち、律法学者たちをみな集め、キリストはどこで生まれるのかと問いただした。

2:5 彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれています。」

2:6 『ユダの地、ベツレヘムよ、あなたはユダを治める者たちの中で決して一番小さくはない。あなたから治める者が出て、わたしの民イスラエルを牧するからである。』

2:7 そこでヘロデは博士たちをひそかに呼んで、彼らから、星が現れた時期について詳しく聞いた。

2:8 そして、「行って幼子について詳しく調べ、見つけたら知らせてもらいたい。私も行って拝むから」と言って、彼らをベツレヘムに送り出した。

2:9 博士たちは、王の言ったことを聞いて出て行った。すると見よ。かつて昇るのを見たあの星が、彼らの先に立って進み、ついに幼子のいるところまで来て、その上にとどまった。

2:10 その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。

2:11 それから家に入り、母マリアとともにいる幼子を見、ひれ伏して礼拝した。そして宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。

2:12 彼らは夢で、ヘロデのところへ戻らないようにと警告されたので、別の道から自分の国に帰って行った。

イエス様の誕生は、全能の神様が人類の救いのために計画なさった、すばらしくも不思議なみわざです。それは世の基が定まる前からのご計画であり、また旧約聖書に明記されていたものです。

またイエス様の誕生は、無限永遠絶対の神様が人となって、有限の世界に生まれ、人として弱い者となられたという、驚くべき出来事です。そして何より、人として全人類の罪を背負って刑罰を受けてくださったという、感謝に耐えない驚くべき恵の始まりでもあります。

そのような救い主の誕生が、極めて少数の人々の信仰によっているということは、考えると不思議であり、また非情に不確定な感じもします。神様はご自分の御心になされた人を知っていて、そのような人に大切な働きを託されるのです。

神様が人としてお生まれになる…。その出産をするのは、当然人間しかあり得ません。マリアはその大切な役目を全うしたのであり、ヨセフはその夫という役目を全うしました。同じように私たちもまた、神様が人の世界にみわざを行うという役目を担っています。伝道にしろ愛の行いにしろ、神様の使命を行うのは天使ではなく人間にしかできないことなのです。

マリアは命をかけて、使命を果たす決心をしました。またヨセフも人生をかけて、また名誉を捨ててその決断をしました。彼らに倣って、私たちも主の御心を行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

